

避難場所へ各戸の備蓄品を

今は公共備蓄を優先

を行いたい。



しもむら かつゆき 議員
下村 勝幸

問 町内の1次避難場所に用意した資機材が、すぐに使える体制になっているのか。また、1次避難場所が最低、1〜2日間命をつないで行かねばならないが、資機材の使用訓練等を兼ねて、燃料や備蓄品等の点検指導を早急に実施すべきと考える。

答 松田 総務課長

24年度予算で、全地区に資機材の整備は終わるが、今後はそれらを使って、いかに生き延びるかのための地元対策

問 とにかく早く逃げることを優先するために、家族構成や健康状態によって必要となる備蓄品を、その家庭毎に1次避難場所へ、あらかじめ備蓄するような指導をすべきと思う。その体制を支援する考えはないか。

答 松田 総務課長

まだ、町の備蓄が約6割弱のため、今は一般的な公共備蓄を優先したい。理想は分かるが、今はその考えはない。

問 県道秋丸佐賀線は、24年度から本工事の見通しであると聞いているが、予定通り工事が始まるのか。

答 森田 建設課長

現在用地買収も順次進めており、24年度には四万十町側から工事に着手すると聞いている。今後県に対し早期完成出来るよう、強く要望していく。

問 国道56号線浮津橋の歩道拡張工事において、関係者の了承も得られているので、早期の事業着工に向けて要望活動を実施して行きたいということであったが、その後の状況を問う。

答 武政 まちづくり課長

中村河川国道事務所では、事業化さえできれば、今すぐにも始めたいと考えているようだ。また、事業化に向けた予算要求資料では、事業期間は概ね3年、事業費も約3

億円を見込んでいたが、今も事業化待ちの状態である。

情報 基盤	
複数年度の事業計画は	資料を提示したい

問 この事業で一般会計からの繰入金金を、今年度も約3300万円見込んでいく。

答 松田 総務課長

平成30年までは見通しを作っているため、今後提示したい。

事業の性質を考えれば、全額をこの事業でまかなう必要はないと思うが、出来れば少しづつでも、一般財源からの繰り入れを減らす努力は必要であると考える。今後の複数年度に渡った収支事業計画を示してほしい。



早期完成を待たれる県道秋丸佐賀線